

ペットをどこから迎えますか？

動物をお迎えする時は、
動物愛護センター
善良な動物保護団体
優良ブリーダー から
あなたのモラルが問われています。



ペットをどこから迎えますか？ あなたのモラルが問われています。

根底にある生体展示販売の問題

ぬいぐるみのように可愛い仔犬や仔猫を欲しがる消費者、そのニーズに応えるために存在するのが繁殖業者でありペットショップです。ペットビジネスで犠牲になる動物をなくすためには、法改正と業規制だけでなく、消費者の意識を変えることがなによりも重要です。

次から次と起こる繁殖業者による動物虐待が横行するのは、そもそも「虐待的な飼育環境に置く」ことが「コストダウン」となり、少しでも多くの利益を得ようと、動物の健康と幸せを犠牲にするからです。このように構造上有問題がある限り、繁殖業者やペットショップによる動物への虐待や殺傷は、幼齢動物を欲しがる消費者の購買意識が変わらないかぎり、今後もなくなることはないでしょう。

多発する動物虐待事件

今年 2024 年 6 月、またもや残虐な動物虐待事件が発覚しました。逮捕されたのは、埼玉県で犬の繁殖業を営む 81 歳の男で、繁殖能力がなくなった犬を小動物用のカゴに入れビニール袋で密封し長時間放置し、高体温症と窒息で殺していました。逮捕時の調べに対し「繁殖に使えなくなった犬を生かすと経費がかかる。行き場のない犬に対する責任を取るつもりだった」などと話していました。劣悪な環境の施設には、約 160 頭の犬が置かれ、衰弱した犬も約 20 頭見つかりました。

2020 年施行の動物愛護法改正で、動物殺傷罪が厳罰化されたあとの事件ですし、男は犬の殺傷行為を認めていたため、この事件を見聞きした多くの方は、厳しい処分結果が下されることを固く信じていました。しかし、長野県松本市で起きた至上最悪の動物虐待事件に続き、埼玉のこの事件も、処分結果はたった 40 万円の略式命令という大変軽微なものでした。またもや司法と私達市民との感覚が大きくかけ離れた結果に心底憤りを感じます。陰で同じような扱いをしている劣悪繁殖業者の高笑いが聞こえてきそうです。そしてこう言うでしょう「俺たちは買うヤツがいるから増やすのだ」と。

仮面をかぶった動物愛護団体

では、こういう劣悪繁殖業者の片棒を担がないためにペットショップから購入せず、保護犬や保護猫と呼ばれる飼い主のいない動物を迎えるのはどうでしょう。もちろんその選択も間違いではありません。

ですが、その保護犬・保護猫は本当に保護動物でしょうか？

というのも、昨今の一部の自称動物保護団体は巧妙かつ狡猾です。善良な心ある里親候補の皆さんには、不遇な境遇から救われた可哀相な動物を、今度こそ自分の手で幸せにしてあげたいと心底思っています。そういった慈悲心を巧みに利用し、ペットショップさながらの売りトーカとさまざまな商品の抱き合せで、販売価格と寸分たがわぬ支払いをさせ譲り渡すのです。しかも多くの疾病を抱えた状態で。

またそうした組織化した保護犬・保護猫ビジネスもあれば、劇場型レスキューの動物保護団体もあります。繁殖業者から不要犬猫を仕入れ、あたかも大規模レスキューしたとアピールしたり、レスキュー現場をドラマティックに編集し SNS で配信したりその手法はさまざまです。臨場感ある劇場型は、多くの賞賛に繋がります。そしてその賞賛はダイレクトに寄附に繋がります。ですが、集めた寄附金は医療費など動物の為に使われず、病気になっても治療しなかったり充分な給餌をさせなかったり、若しくは寄附額でまかなえる以上の多数の動物を抱えることで、世話を手が回らず飼養環境や動物の状態がどんどん劣悪になっていき、動物を守るどころか多頭飼育崩壊に陥るケースも多々あるのです。

動物保護団体には動物の命や健康、そしてこれからの幸せのために誠心誠意身を粉にして活動しているところももちろんあります。保護団体から迎えるのなら是非正しい活動をしている善良な動物保護団体からお迎えしてください。そのためには自ら活動内容を調べ、実際に話を聞きに行ったり施設や保護動物の状態を見たり、またどういう経緯で保護されたのかご自身で確認することが大切です。

「ペットをどこから迎えますか？
あなたのモラルが問われています。」



杉本 彩

公益財団法人動物環境・福祉協会 Eva 代表理事、俳優。

動物にも感情と心があります。私たちと同じように、喜びや悲しみや寂しさを感じます。社会の中で、一番弱い立場の動物の命を尊び、その気持ちを思いやることのできる社会は、人にも優しい社会です。人と動物が共に幸せに生きることが出来る、心豊かで平和な社会の実現を全力で目指します。